

ビジネスコミュニケーション手段の改善(第9回)

AIがファイルの自動仕分けも！進化したクラウドストレージの実力

2024.09.25



今、DX推進は、企業の競争力を継続して確保するための大きな力として、さらに重要なものとなりつつある。経験や勘に頼った意思決定から情報をデジタル化して可視化し、社内へ水平展開を可能にすることで、データに基づいた洞察による精緻な意思決定へと変革する。このようにDXは、デジタル化そのものが目的ではなく、デジタル化した基盤の上で新しいビジネスのあり方を模索し、実践していくことにこそ価値がある。

DXによる生産性向上・業務効率化で求められる迅速な情報共有

では、新たな価値創造の基礎となる生産性の大幅な向上や、業務を効率ビジネス変革にはどのようにたどり着いたらよいのだろう。その第一歩は、着実に日々の業務をデジタルの世界にすり合わせていくことだ。そこで考えたいキーワードの1つが、「ビジネスコミュニケーションの迅速化」である。

紙の書類を扱っていたときには不可能だったようなコミュニケーションのスピードアップが、デジタル化した世界では実現可能だ。それも社内に閉じたコミュニケーションだけではなく、安心して確実な情報共有を担保しながら、社外取引先とのコミュニケーションの迅速化にもつなげることが可能だ。その具体的なソリューションとして、クラウドストレージの利活用が考えられる。場所の制限を受けるローカルのパソコンやファイルサーバーに情報を蓄積していた状況から、クラウド上のストレージに情報の保管場所を変えることで、多様なメリットが得られるのだ。インターネットを介してクラウドストレージにアクセスできる環境は、オフィス内に閉じ

さらに、BCPの観点からもクラウドストレージの有効性は高い。水害や火災など、さまざまな災害のニュースが飛び交う現代だからこそ、必要なデータをクラウドストレージに保管しておくことで、物理的にオフィスが被災した際にもデータを守ることが可能になるだろう。

国内企業の約5割が導入済みも、「セキュリティ機能」「データ容量」「検索性」に課題… 続きを読む